

有限会社グリーンフーズあつみ おつけもの慶



「食」を通じた地域社会への貢献とフードロス削減、環境保護推進

(1) 企業概要	設立	1988年6月	代表者	渥美 和幸	住所	川崎市川崎区大島3-35-7
	事業内容	青果の卸・販売 キムチ・漬物の製造・販売				

当社は青果物の卸・販売と「おつけもの慶」としてキムチを主とした漬物の製造・販売を行っています。1991年に現社長の渥美和彦が入社、自ら青果物の買付人として市場に通うことで、目利きのノウハウを蓄積してきました。その後、2003年に「おつけもの慶」第1号店をオープンしました。キムチ職人歴40年の匠「城野勝」の作るキムチが徐々に話題となり、「人通りの少なかった一坪のお店」が口コミで広がり、地元情報誌への掲載から行列店舗へと成長してきました。2019年には神奈川県から「おつけもの慶」が作るキムチが「かながわの名産100選」に認定されています。当社の企業理念は「食べることの大切さと向き合う」です。川崎での三十有余年の年月の中で培ってきた一貫した姿勢は「美味しい野菜を食卓に届けたい」という思いであり、体のためになり、心を潤す本物の美味しさを追求し続けています。「野菜の数だけキムチがある」をモットーに、川崎の名物「おつけもの慶」を全国へ、さらに世界に向けてキムチの美味しさを発信していきます。



渥美社長



行列店舗

(2) 具体的なSDGsの取組内容

- ・ **目標 10「人材確保と育成」**：国籍、性別、年齢を問わず積極的かつ平等な雇用対策を実施しています。当社では日本、韓国、中国、フィリピンの方々が働いています。また、地元の障害者の方をPC入力や包材の下準備などの短期雇用に採用し、地域に根付いた企業づくりに努めています。
- ・ **目標 12「フードロス削減と地産地消」**：SDGsへ取組む「きっかけ」となった、原料野菜などから出る端材の野毛山動物園への寄付や、二次加工品としてお弁当具材への転用などを実施しています。また地場野菜である、川崎伝統野菜の「のらぼう菜」や麻生区で生産されている「防空壕キクラゲ」、横須賀市の名産「よこすかキャベツ」などをキムチとして製造・販売し、地産地消を進めています。
- ・ **目標 12「製造工場の拡張による安心・安全な食の安定供給」**：食卓へ安心・安全な食を、安定してお届けするために、生産性を高めるための設備である「自動キムチ充填装置」を、地元町工場25社連携の共同受注プラットフォームである「タカクラフト」へ依頼し、協力して地域産業発展にも寄与しています。



様々な国籍・性別・年齢の従業員

川崎駅弁 元祖!おなかいっぱい
豚キムチDON
たった5分準備するだけで、出庫までが味わえます。
お弁当の具材として活用し、お客様に提供しています。
安心・安全・美味しく食べてください!

お弁当への端材活用

のらぼう菜キムチ

防空壕キクラゲ

防空壕キクラゲキムチ

自動キムチ充填装置

かわさき町工場ユニット共同受注
Taka Craft
タカクラフト

自動キムチ充填装置 タカラクラフトと当社の協業の様子

・目標 13「使用する容器の見直しと効率化」：プラ容器・PP 袋など使い捨て包材を、再生可能な植物原料由来の素材へ転換しました。使い捨てプラスチックを **85%削減する目標**は 2021 年に達成し、同年 11 月に **川崎市第 10 回スマートライフスタイル大賞**を受賞しました。また地元の顧客に向け、**お持ち帰り専用容器 K-Pot** をタカツクラブとともに協議、開発し、脱プラスチックをさらに進めています。



(3) 取組を始めたきっかけ、理由、目的

年配の農家の方々が丹精こめて、懸命につくっている野菜類を、不要な部分とは言え、捨ててしまうことが「**もったいない**」と思ったことがきっかけとなっています。まずはできることから、キムチ生産の際に破棄していた原料野菜などの端材を**野毛山動物園へ寄付**することから活動が始まりました。国籍を問わない平等な雇用に関しても、もともと在日韓国人が地元に入り混じっている土地柄の中、お互い助け合う様子を見てきたことから、「**当たり前のこと**」として取り組んでいます。渥美社長の SDGs への取組みは、このように「**できることから始めればよいのだろう**」とごく自然体です。



井手うまささんの丹精込めた白菜

(4) SDGs 活動の成果

・2021 年 4 月に「**かわさき SDGs ゴールドパートナー**」に認定され、2022 年 10 月には、幅広い事業者の参考となる優れた取組であるとして、**かわさき SDGs 大賞**を受賞しました（かわさき SDGs パートナー 2,400 者中 44 団体応募から No. 1 に選ばれました）。



2022年10月24日かわさきSDGs大賞受賞

・SDGs への取組みによって、**社員の意識も変化**してきました。見栄えからプラスチックパックでないダメ、という包材に対しての意識も変わり、今では地産地消野菜キムチやお弁当メニューの考案など、**社員からの SDGs 取組み提案**も増えてきています。

・当社の取組みがメディアや情報誌等を通じて紹介されたことで、**認知度が一層高まりました**。その結果、同業者からの相談も増え、**異業種との思いがけない交流**や**地元企業とのさらに深い結び付き**など様々な形での連携も広がりました。



川崎プレイブサンダースのSDGs取組と協業

(5) 地元ステークスホルダーとのさらなる連携強化へ

・「のらぼう菜」等続く**地場野菜のさらなる活用**を図るべく、地元 JA や農家さんとの連携強化を図っています。

・プロバスケットボール B リーグ所属の**川崎プレイブサンダース様**は SDGs に積極的に取り組んでおり、SDGs 活動を通じた交流が生まれています。今後もイベントでの協業等でお互いに協力していきたいと思えます。



工場見学とキムチづくり体験

・地域交流の一環として、**工場見学とキムチづくり体験**を定期的実施しており、好評を博しています。また**地元高校生インターンシップの受入れ**で、若い世代への地元企業に対する認知を広げています。これらの地元密着活動を今後とも継続、推進していきます。



川崎市教育委員会・幸高校インターンシップ風景

(6) SDGs 活動を通じてわかったこと・今後の課題

・SDGs 活動でより深まった**地場野菜の活用と地産地消の取組**は、「**美味しい野菜を食卓に届けたい**」と**いう当社の思いにまさに合致**していることや、企業のあり方、いわゆる「**世のため人のため**」という基本的な事が SDGs 活動を通じて再認識できたと強く感じています。

・今後は、SDGs 活動取組のきっかけになった野菜の端材に関して、ロス削減に留まらず、**アップサイクル（循環的再利用）**へと繋げていきたいと考え、公益財団法人川崎市産業振興財団や関連企業・大学などとの連携等をさらに強化していくつもりです。